

CIGS 山下一仁 研究主幹 講演会 『バターが買えない不都合な真実』

2014年からバターが不足している。一時期スーパーからバターが消えた。「おひとり様一つに限らせていただきます」というスーパーも出た。今でもバターの売り場は以前よりも小さくなり、ニュージーランド産のバターも並んでいる。

バターは、酪農家が生産する生乳から作られる。農林水産省は、2013年の猛暑の影響で乳牛に病気が多く発生したことや、酪農家の離農等で乳牛頭数が減少していることなどで、生乳の生産量が減少したためだと説明した。

しかし、酪農家の離農は最近に限ったことではない。バターや脱脂粉乳などの乳製品向けの生乳の供給量もバターの生産量も、2010年や2011年の方が2013年よりも大きく減少している。それなのに、2010年、2011年に、なぜバター不足が起きなかったのだろうか？バターと同じように、脱脂粉乳の生産も減少しているのに、なぜ脱脂粉乳は不足しないのだろうか？バターは国際市場では過剰なのに、なぜバターが入ってこないのだろうか？

これらの謎を解き明かすことで、バターが不足する本当の理由に迫りたい。

<開催概要>

日時：2016年7月5日(火) 14:00～16:00

場所：一橋大学一橋講堂 学術総合センター2階 (東京都千代田区一ツ橋二丁目1-2)

定員：400名

開催：キャノングローバル戦略研究所

<講演者プロフィール>

山下一仁 キャノングローバル戦略研究所(CIGS) 研究主幹

1955年岡山県笠岡市生まれ。77年東京大学法学部卒業、農林省入省。82年ミシガン大学にて応用経済学修士、行政学修士。2005年東京大学農学博士。農林水産省ガット室長、欧州連合日本政府代表部参事官、農林水産省地域振興課長、農村振興局次長などを歴任。08年農林水産省退職。同年経済産業研究所上席研究員。09年キャノングローバル戦略研究所研究主幹。

著書に「バターが買えない不都合な真実」幻冬舎16年、「日本農業は世界に勝てる」日本経済新聞出版社15年、「農協解体」宝島社14年、「日本の農業を破壊したものは誰か～農業立国に舵を切れ」講談社13年、「TPPおばけ騒動と黒幕」オークラnext新書12年、「農協の陰謀」宝島社新書11年、「環境と貿易」日本評論社11年、「農業ビッグバンの経済学」日本経済新聞出版社10年、「企業の知恵で農業革新に挑む」ダイヤモンド社10年、「亡国農政の終焉」ベスト新書09年、「フードセキュリティ」日本評論社09年、「農協の大罪」宝島社新書09年、「食の安全と貿易」日本評論社08年、「国民と消費者重視の農政改革」東洋経済新報社04年など。

<プログラム>

14:00-14:10 開会挨拶

福井 俊彦 (キャノングローバル戦略研究所 理事長)

14:10-15:30 講演 『バターが買えない不都合な真実』

山下 一仁 (キャノングローバル戦略研究所 研究主幹)

15:30-16:00 質疑応答